

## サクラサク

J J 1 S X A / 池

「サクラサク」は、昭和30年代（1955年～1964年）から平成初期にかけて用いられた、日本の大学入試の合否を伝達する電報の通称である「合格電報」に用いられた電報文体のひとつで、対語は「サクラチル」だ。

有線電報華やかなりし頃の年配のOMさん達には、懐かしい響きの「サクラサク」と、もう一つ「ウナ電」、インターネットや携帯電話の発達で、世界の何処からでも瞬時に情報が届く現代は、当時とは比べるべくも無い、超便利社会だ。

大学入試の合否は、大学構内に掲示された受験番号を確認するか、時代が下ると合否通知が郵送されることで判明したが、いずれにしても遠隔地に住む受験生にとっては合否が判明するまでの時間的、心理的な負担が大きかった。

そこでいち早く合否を知る手段として、受験生が大学近くにいる人物に受験番号を確認してもらい、電報で伝えてもらうようにと、1956年（昭和31年）に早稲田大学で始まったことが由来とされている。

当初、この際に合格を示す文面として「サクラサク」（桜咲く）が用いられたことで、他大学の合格通知もサクラサクが良く用いられて全国的に広まった、2020年現在もサクラサクは受験合格を示す慣用句として用いられているようだ。

合格電報は大学当局が公式で関与しているものではなく、多くはサークルの運営費や遊び資金稼ぎを目的に組織された「電報屋」という学生アルバイトが担当していた、そのため「サクラサク」以外にも各大学によって合否を伝える文面が異なり、多くの大学では地域色が反映されていたようだ。

北海道大学

合格：「エルムハマネク」（エルムは招く）「エルムノカネガナル」（エルムの鐘が鳴る）、農学部前庭（現・理学部3号館近く）に生えていた榆の大木と、それに吊るされていた鐘にちなむようだ。

不合格：「ツガルカイキョウ ナミタカシ」（津軽海峡 波高し）

秋田大学

合格：「ナマハゲカンゲイ」（なまはげ歓迎）

不合格：「オバコヒトリネアキタ」（おぼこ独り寝飽きた）

東京大学

合格：「アカモンヒラク」（赤門開く）

不合格：「イチョウチル」（イチョウ散る）

お茶の水女子大学

合格：「オチャカオル」（お茶香る）、補欠合格：「カオリマタヨシ」（香り又良し）

不合格：「コノメドキマテ」（木の芽時待て）

福井大学

合格：「アスワヤマニハナガサク」（足羽山に花が咲く）、足羽山（あすわやま）を知らない人が、「明日は山に花が咲く」と誤読し、補欠合格や不合格と誤解するケースがあったようで、その後、合格通知は「水仙かおる日本海」等に改められた。

奈良教育大学

合格：「ダイブツヨロコブ オメデトウ」（大仏喜ぶ おめでとう）「テンピョウノイラカカガヤク」（天平の豊輝く）

不合格：「ダイブツノメニナミダ（サイキコウ）」（大仏の眼に涙 再起乞う）

大阪大学歯学部

合格：「ニューシ ハエル」（入試映える、乳歯生える）

鳥取大学

合格：「ゴウカクオメデトウ トリダイ」（合格おめでとう 鳥大）

不合格：「サクキュウニューヒシズム」（砂丘に夕日沈む）

鹿児島大学

合格：「ホクシンカガヤク」（北辰輝く）

不合格：「サクラジマフハツ」（桜島不発）

いろいろ面白い発想だ。

しかし、1984年ごろより郵政省が電子郵便の需要拡大を目指して、合格者の受験番号一覧を送り、受験生の番号の有無で合否がわかる大学入試レタックスを導入し、大学当局にとっても受験生の問い合わせ防止や情報化時代の反映を理由に、希望者に対する電子郵便での合格発表をすることが増えたため、次第に学生アルバイトが合格電報の取扱から撤退していったことで消滅していった。

一方の、「ウナ電」は至急電報のことだというのは常識だった、いわば速達の電報、通常電報の2倍の料金で、優先的に送信するものを指した。

辞書「大辞林 第三版」にも次のように解説されています、うなでん「ウナ電」…至急電報の意の UR（urgent）の欧文符号を和文符号として読むと「ウナ」となることから…1976年（昭和51）廃止。

そのウナ電が廃止されたのは、今から44年前、当時の国会の議事録によれば、廃止の理由は「電報電話業務の合理化を図る等のため」とのこと。

住宅用電話の数は1975年（昭和50年）に100世帯あたり約63台と普及も進み、「ウナ電」はその役目を終えたのでした。

愛知県名古屋市に所在する専門商社「興和株式会社」が販売する医薬品「ウナコーワ」の名前の由来は、「至急の電報」は「ウナ電」と呼ばれていた、「ウナコーワ」は、かゆみにすぐ効く！という思いをこめたブランド名だとのこと。

CWを覚える前から、「ウナ」という言葉は知っていたし、当然「ウナ電」とは至急電報だということも知っていた、CWを覚え、・・・—　・—　・は、「UR」であり、和文では「ウナ」であることはすぐに分かったが、urgentの前2文字であることは、永い間知らなかった。

虫刺されの即効薬「ウナコーワ」が「ウナ電」のウナから命名されたことも知らなかった、要は一般常識も雑学も共に不足していることの証だ、過去の経験では「サクラチル」の方が多かったような？

だが、今更どんな風に勉強に取り組めば良いのか、人生100年時代というが、健康状態は不安、我が人生も、残り少なくなったことは紛れも無い事実のようだ、天上界の友人達が「早くいらっしやいと」招いているが、しばし待たれよ、ウナは取り下げてくれ。hi